八頭中学校開校10年記念式典を開催

平成27年4月、旧八東・船岡・中央の3中学校を統合し開校した八頭中学校が、開校10年を迎え、11月22日（金）に記念式典を行いました。

式典では、表博則校長が「『人の為に生きる』『故郷の為に生きる』人材を育成することが本校の使命であり、職員・生徒ともにその自覚を持ち努力を続けることが大切」と述べました。また、西尾生徒会長が「先輩方が築いた歴史を受け継ぎ、自分たちにしかできないことに挑戦していきたい」と決意を語りました。

式典の締めくくりには、校歌を作曲した村上有子先生の伴奏により、全校生徒が校歌を斉唱。未来の八頭町を担う人材として、さらなる飛躍が期待されます。

全校生徒の前であいさつをする西尾生徒会長

つながり合い・支え合いのまちづくり活動報告で学びを共有

11月20日（水）、郡家老人福祉センターと南部町の「キナル南部」の両会場をオンラインで結び、地域福祉活動を報告し合う「まちづくり活動発表会」が行われました。

これは、町と南部町が共に住民と行政が協力して「共生のまちづくり」を進める地域福祉計画を策定していることから、両町の取組を報告し合うことでさらなる地域福祉活動の活性化を図ろうと実現したものです。

町からは済美地区まちづくり委員会が、地域の子育て世代と連携して進める「さいみっこスクール」の活動について、大御門地区まちづくり委員会が、多世代が協力して進めるまちづくりについて発表をしました。参加者たちは活発に意見を交わし合い、有意義な交流が行われました。

活動報告を行った両まちづくり委員会の委員

地域の安全を守るため自警団合同演習開催

火災現場付近に水利がないことを想定し、遠く離れた場所から複数の消防ポンプで送水する「中継送水」の訓練が、町消防団と自警団合同で行われました。

11月10日（日）、隼Lab.グラウンドで実施された演習には、隼地域の8つの自警団が参加。用水路からくみ上げた水を協力して消防車に送り、火元に放水するまでの操作を確認しました。

11月17日（日）、私都川に架かる諸木橋周辺で実施された演習には、下私都地区の8つの自警団が参加。実践を想定した送水訓練が行われ、消防団と自警団との連携強化を図りました。

実践を想定し、緊張感ある中での放水

若桜鉄道安部駅で「寅さんまつり」開催

映画「男はつらいよ」第44作のロケ地となった若桜鉄道安部駅で、11月17日（日）、「寅さんまつり」が行われました。

ゲストに作州寅次郎さんとその仲間たちを迎え、映画ロケ誘致に尽力した角秋さん、当時役場職員として現場対応をした矢部さん、ロケ当時さくら観光職員として安部駅勤務だった尾崎さんが参加し、「33年前のあの時」を振り返るトークショーを開催しました。

また、駅前の移住定住センター「くるくる」では、当時の写真や資料の展示が行われ、駐車場では地元住民によるいのしし鍋のふるまいやバザー出店が実施されるなど、昭和レトロな雰囲気漂う安部駅の魅力を改めて感じるイベントとなりました。

笑顔で撮影の裏話を話す角秋さん

生きる力を学ぶ 船岡小「輝プロジェクト」

11月29日(金)、船岡小学校で東京・パリ両五輪女子板飛び込み日本代表の三上紗也可さんと、コーチの安田千万樹さんを招いた講演会が開催されました。

この講演会は、国内外で活躍する人との交流を通じて生き方や考え方を学ぶ「輝プロジェクト」の一環として行われたもので、三上さんは自身の経験を踏まえ「失敗を恐れず挑戦してみてほしい。小さな目標でも努力を続けることが大切」と語りかけました。

参加した児童は「三上さんの話を聴いて、あきらめない気持ちの大切さを学んだ。これからの生活に生かしていきたい」と話していました。

練習にとり入れている縄跳びで三重跳びの実技披露をする三上さん

足湯で心も体もほっこり 人権擁護委員特別相談会開催

足湯をしながら人権擁護委員とのおしゃべりを楽しむ参加者たち

鳥取県人権擁護委員協議会八頭町部会は、介護老人施設きたやまで足湯サービスを提供しながら困りごとなどを聞く特別相談会を開催しました。

利用者は、約40度の湯に入浴剤を混ぜて作られた足湯セットにゆっくり足をつけ、人権擁護委員らと雑談をしながら足をマッサージしてもらうなど、和やかな時間を過ごしました。「あったかくて気持ちよかった」との感想も聞かれました。

湯浅人権擁護委員は「足湯をきっかけに心を開いてもらい、交流を深めることで、日頃かかえている悩みなどを話してもらえるようになるとうれしい」と話していました。

心つなぐ国際交流 日韓子ども交流(八頭町招へい)事業

国際的な視野を持つ子どもたちの育成を目的とした日韓子ども交流事業が、11月22日(金)から24日(日)まで八頭町で実施され、町内の子どもたち10名と韓国横城(フェンソン)郡の子どもたち10名が、さまざまな活動を通じて交流を深めました。

23日(土)は、カレー作りやキンボールなどのニュースポーツ体験を通じて親睦を深めた後、青山剛昌ふるさと館や砂の美術館などを見学しました。夜は歓迎会が開催され、子どもたちは身振り手振りで会話を楽しみながら、8月の訪韓以来の再会を喜び合いました。

楽しい思い出たくさんできたかな

翌24日(日)は、若桜駅で転車台の回転や線路の石絵付け体験を行いました。石絵付けでは、韓国の子どもが日本語で、八頭町の子どもがハングルで、それぞれの名前などを書いて見せ合うという交流の成果も見られました。最後は若桜鉄道に乗車し、郡家駅までの列車旅を楽しみました。

訪日団団長のシム・ヨンテクさんは「八頭町の温かい歓迎に心から感謝します。今回の交流をきっかけに、子どもたちが両地域の友好発展に貢献してくれることを期待しています」と話していました。

白熱した対戦が繰り広げられたカローリング

力を合わせて転車台をまわします